花祭り

平成二十八年四月二十六日　於加茂法話会

四月八日は、お釈迦様の誕生日を祝う『花祭り』である。ヒマラヤ山麓、現在のネパール。
中インド迦毘羅国（かびらこく）　ルンビニ園の庭　無憂樹（むゆうじゅ）下でお生まれになりました。
無憂樹（マメ科）：釈迦が生まれた所にあった木
印度菩提樹（クワ科）釈迦が悟りを開いた所にあった木
沙羅双樹（フタバガキ科）：釈迦が亡くなった所にあった木

釈迦生誕の地、ネパール・ルンビニの無憂樹

父母 父は、釈迦族の王、首頭壇那（スドダーナ）＝浄飯王（じょうぼんのお）　母は、磨訶摩耶（マカ・マーヤ）と言います。

誕生 摩耶夫人は、三十五歳の時、ある夜、六つの牙を持つ白像が天より降りて右脇より体内に入る夢を見ました。バラモンの夢占師に聞くと、インドでは、象は聖獣とされているため、まさに吉夢で、世継ぎ誕生の兆しと告げられました。

マーヤはまもなく懐妊し、マーヤが出産のため、里帰りの途中立ち寄ったルンビニ園の庭で休息中、無憂樹の花を手で折ろうとしたところ、右脇の下から釈尊がお生まれになったとされています。

誕生仏 生まれてすぐに四方に七歩ずつあるいて、右手は天、左手は地を指して「天上天下、唯我独尊」と宣言されたと云われています。

『普曜経』にあるように、龍王がお釈迦様の降誕を讃え甘露の雨を灌いで身体を洗浴した事から、甘茶を灌ぐ事になった。五種香・・・沈香・白檀・丁子・鬱金・竜脳。

私共も甘茶を灌ぐ事によって、私ども自体も、尊い存在である事を自覚して、心のゴミ（欲張り・いかり・愚かさ）三匹の鬼を洗い清め、施し、優しく、正しく「こころに真理の花を」咲かせて生活をする。

今後、真理の花に包まれた自分達を見出す場所を探し「花御堂」の主人公となり、人類の支柱になれとお釈迦さまは天と地を指しておられるのだと信じています。法（おしえ）の功徳をお香にたとえて、戒香（かいこう）、聞香（もんこう）、施香（せこう）などともいいます。

正壽寺住職　呉　定明合掌